

柏の景気情報（平成19年9月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成19年9月分）

○ 調査期間 : 平成19年9月20日 ~ 9月25日

○ 調査対象 : 柏市内99事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	99	72	72.7%
建設	17	14	82.4%
製造	23	17	73.9%
卸・小売	39	27	69.2%
サービス	20	14	70.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成19年9月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは5ヶ月振りにマイナス幅が縮小、採算・仕入単価は依然最悪水準 ▶

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.8(前月水準▲31.9)となり、マイナス幅が△11.1ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲38.4)、建設業▲21.4(同▲35.7)、卸小売業▲40.7(同▲44.4)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△38.4ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲5.8(同▲5.5)である。

【建設業】では、「前年の9月の施工物件が今年は半分に減少。元請業者の競争が激しくなっている」(管工事)との競争激化の声や、「物件は増加しているが、あとは予算と積算の問題。つり合う範囲での受注を望んでいる。取り組める範囲ではないことが多い」(土木建築工事)との声や、公共工事に関しては、「落札価格が低すぎ、このままでは災害時、官庁に協力する業者がいなくなるのでは」(土木工事)、「単価が安すぎるので応札できない」(土木建築工事)といった声が寄せられた。

【製造業】では、「猛暑の影響で業界の前年単月比は107%となった」(飲料製造)、「ユニットハウスのレンタルは好調を維持」(建設用金属製品製造)との好調の声も寄せられているが、引き続き、「材料の値上げは簡単に行うが、製品の値上げは難しい」(紙製容器製造)、「石油関連商品の値上げが続き、冬季需要期に向けコストアップが心配」(ゴム製品製造)、「原料、燃料の高騰には厳しいものがある」(鉄粉製造)、「地金単価上昇により売上は増加するも、地金単価上昇分全てをユーザーに転嫁できず利益は悪化」(非鉄金属・合金圧延)といった仕入コスト上昇の声が多く寄せられた。また、「部品の加工工数オーバーが予測されるため、新外注加工会社を募集したところ、1ヶ月以内に数社の応募があり、反応の良さに驚いた」(包装・組立機械製造)といった声も寄せられている。

【卸小売業】では、「8月に『東急ハンズ』がオープンし、当店への入店客数も大きく増加したが、9月に入り、その集客効果もステーションモール内に留まっている」(百貨店)との声や、「地区のチェーン店の平均は高気温が続いたこともあって順調だが、当店は不調である」(コンビニエンスストア)、「柏の店舗は他の店舗と比べ、10ポイント以上悪い」(婦人雑貨小売)、「柏市周辺の小売業は本格的な競争に入ってきた。撤退、倒産する小売店が増えるような気がする」(食料スーパー)といった市内の競争激化の声や、「残暑のためか、衣替えの買い替え需要がゼロ」(学生衣料)、「残暑が厳しく、秋冬物商品の出足は良くない」(各種商品小売)、「残暑の厳しさに消費者も変化し、特に果実ではそのニーズに合わせる事が難しくなっている」(青果卸売)といった残暑の影響に関する声が寄せられた。また、「小麦粉等の値上げで、材料関係が上がり傾向」(菓子製造小売)といった仕入コスト上昇の声も寄せられている。その他、「いかに他と違う個性的な店になる改革が必要」(食料スーパー)、「改装工事中。11月フルオープン予定」(総合スーパー)といった各店ごとの営業努力の声も寄せられているが、「政治の不安定や不信感が消費者の先行きの不安感に繋がっているようで、食品に対する買い渋り現象が起きているように思う」(食料卸売)とのコメントも寄せられている。

【サービス業】では、「9月に入ってから、団体のお客様の予約が増加」(レストラン)、「Jリーグ宿泊あり」(ホテル)といった明るい声の一方、「柏市内においては、同業種(温浴事業)が多く、低価格等で集客を図ることが多くなる」(公衆浴場)といった競争激化による厳しい声も寄せられている。その他、「秋のパーティープラン開始」(ホテル)とのコメントも寄せられている。

○仕入・コスト上昇

引き続き、「石油関連商品の値上げが続き、冬季需要期に向けコストアップが心配」(ゴム製品製造)、「原料、燃料の高騰には厳しいものがある」(鉄粉製造)、「小麦粉等の値上げで、材料関係が上がり傾向」(菓子製造小売)、「諸物価の値上がり(値上げ、価格改定)が目立つ。給食・衣料関係も来期(冬物)からの要請あり」(飲食料品小売)との仕入コスト上昇の声や、「材料の値上げは簡単に行うが、製品の値上げは難しい」(紙製容器製造)、「地金単価上昇により売上は増加するも、地金単価上昇分全てをユーザーに転嫁できず利益は悪化」(非鉄金属・合金圧延)といった価格転嫁が難しいとの声が寄せられている。

○天候の影響

「猛暑の影響で業界の前年単月比は107%となった」(飲料製造)との好調の声も寄せられているが、「残暑や台風の影響で入荷量(野菜・果実)に不安定な状況」(青果卸売)、「残暑のためか、衣替えの買い替え需要がゼロ。運動会需要も暑さのために練習量が控えめのためか例年より動かず」(学生衣料)、「残暑が厳しく、秋冬物商品の出足は良くない」(各種商品小売)、「台風に見舞われたことから、売上高は大きく減少。中旬の3連休は気温が高かったこともあり、主力の婦人服の動きが鈍く、厳しい結果となった」(各種商品小売)といった厳しい声が卸小売業を中心に多く寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲15.7	▲6.2	▲5.8	▲33.3	±0.0
5月	▲19.4	▲26.6	±0.0	▲32.1	▲9.0
6月	▲21.7	▲21.4	▲5.5	▲32.0	▲25.0
7月	▲27.1	▲38.4	▲5.5	▲34.6	▲30.7
8月	▲31.9	▲35.7	▲5.5	▲44.4	▲38.4
9月	▲20.8	▲21.4	▲5.8	▲40.7	±0.0
見通し	▲15.2	▲14.2	△5.8	▲33.3	▲7.1

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 11.1	±0.0	▲ 31.9	▲ 18.0	▲ 47.2	▲ 40.2	△ 11.1	△ 12.5
建設	▲ 21.4	▲ 7.1	▲ 35.7	▲ 14.2	▲ 64.2	▲ 57.1	±0.0	▲ 7.1
製造	△ 17.6	△ 23.5	▲ 35.2	▲ 11.7	▲ 64.7	▲ 41.1	△ 17.6	△ 23.5
卸・小売	▲ 37.0	▲ 7.4	▲ 40.7	▲ 25.9	▲ 29.6	▲ 40.7	▲ 7.4	▲ 3.7
サービス	△ 7.1	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 14.2	▲ 42.8	▲ 21.4	△ 50.0	△ 50.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 20.8	▲ 15.2	▲ 12.5	▲ 6.9
建設	▲ 21.4	▲ 14.2	▲ 14.2	±0.0
製造	▲ 5.8	△ 5.8	▲ 5.8	▲ 5.8
卸・小売	▲ 40.7	▲ 33.3	▲ 18.5	▲ 7.4
サービス	±0.0	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 14.2

【平成19年9月の業況についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.8(前月水準▲31.9)となり、マイナス幅が△11.1ポイント縮小した。

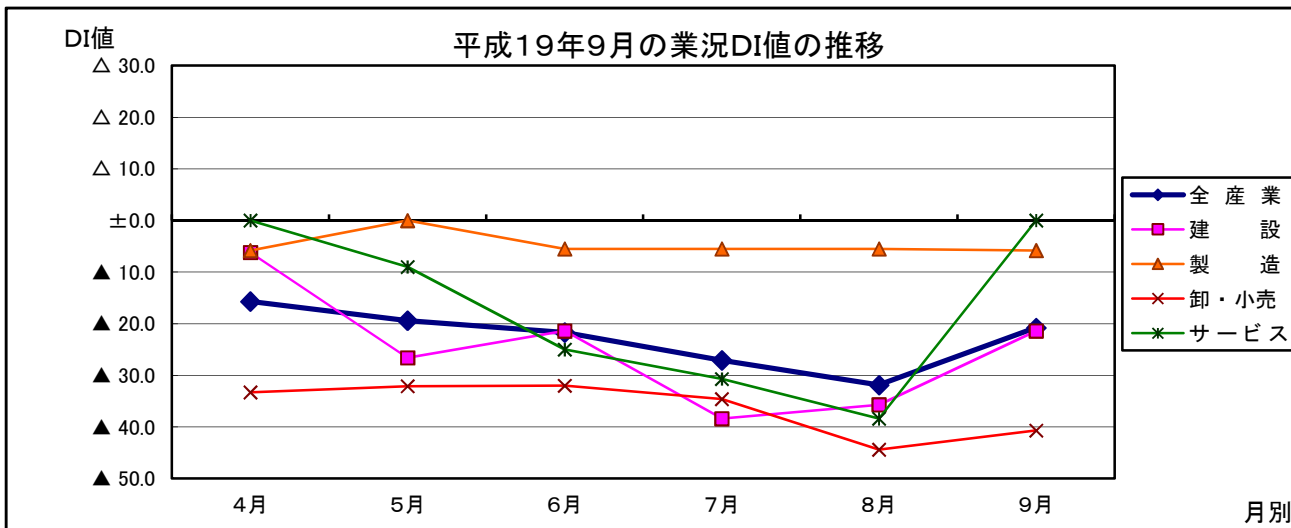
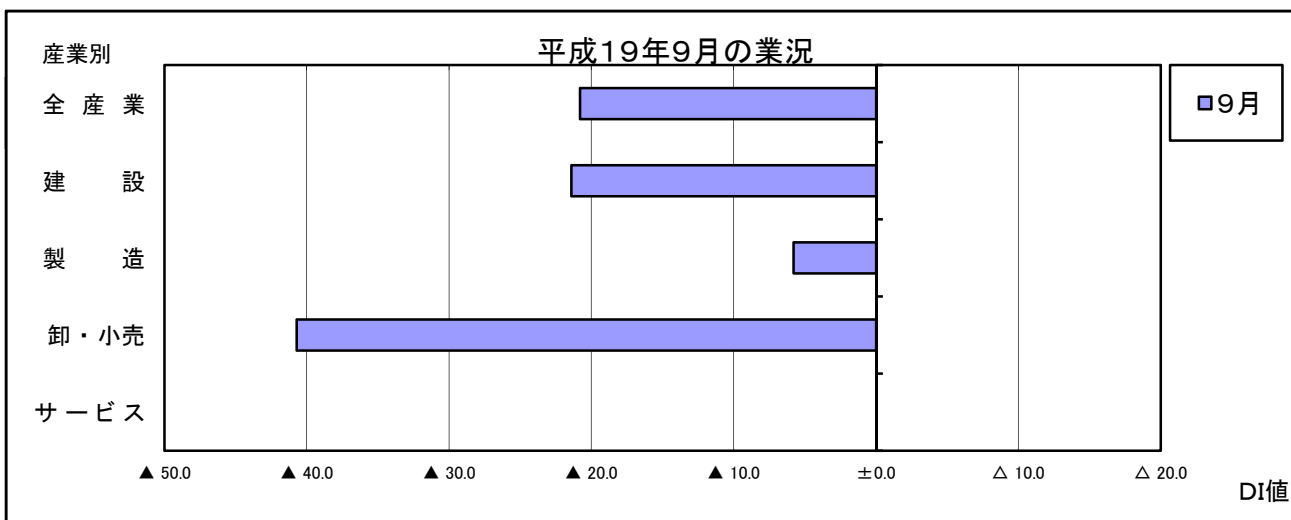
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲38.4)、建設業▲21.4(同▲35.7)、卸小売業▲40.7(同▲44.4)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△38.4ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲5.8(同▲5.5)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.2(前月水準▲18.0)となり、マイナス幅が△2.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△5.8(同▲5.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同▲35.7)、サービス業▲7.1(同▲7.6)であり、特に、建設業はマイナス幅が△21.5ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲33.3(同▲22.2)である。

平成19年9月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲15.7	▲19.4	▲21.7	▲27.1	▲31.9	▲20.8	▲15.2(▲18.0)
建設	▲6.2	▲26.6	▲21.4	▲38.4	▲35.7	▲21.4	▲14.2(▲35.7)
製造	▲5.8	±0.0	▲5.5	▲5.5	▲5.5	▲5.8	△5.8(▲5.5)
卸・小売	▲33.3	▲32.1	▲32.0	▲34.6	▲44.4	▲40.7	▲33.3(▲22.2)
サービス	±0.0	▲9.0	▲25.0	▲30.7	▲38.4	±0.0	▲7.1(▲7.6)



【平成19年9月の売上についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.1(前月水準▲18.0)となり、マイナス幅が△6.9ポイント縮小した。

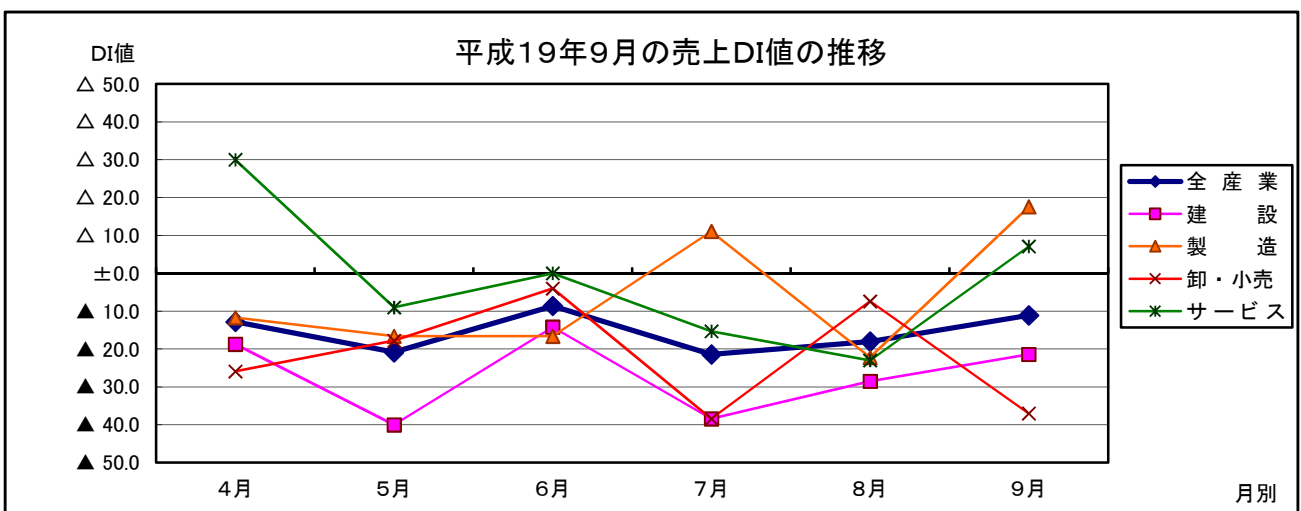
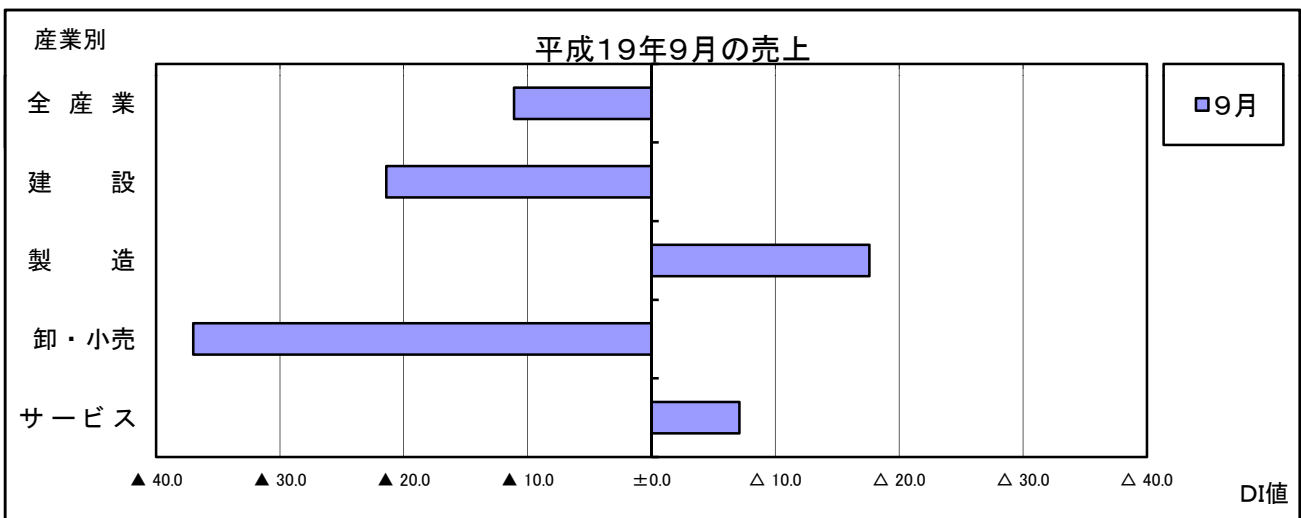
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△17.6(同▲22.2)、サービス業△7.1(同▲23.0)であり、製造業△39.8ポイント、サービス業△30.1ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲21.4(同▲28.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲37.0(同▲7.4)であり、マイナス幅が▲29.6ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、±0.0(前月水準△1.3)となり、プラス幅が▲1.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△23.5(同△16.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲7.1(同▲23.0)、建設業▲7.1(同▲21.4)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、卸小売業▲7.4(同△11.1)である。

平成19年9月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲12.8	▲20.8	▲8.6	▲21.4	▲18.0	▲11.1	±0.0(△1.3)
建設	▲18.7	▲40.0	▲14.2	▲38.4	▲28.5	▲21.4	▲7.1(▲21.4)
製造	▲11.7	▲16.6	▲16.6	△11.1	▲22.2	△17.6	△23.5(△16.6)
卸・小売	▲25.9	▲17.8	▲4.0	▲38.4	▲7.4	▲37.0	▲7.4(△11.1)
サービス	△30.0	▲9.0	±0.0	▲15.3	▲23.0	△7.1	▲7.1(▲23.0)



【平成19年9月の採算についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.9(前月水準▲31.9)と変わらなかった。

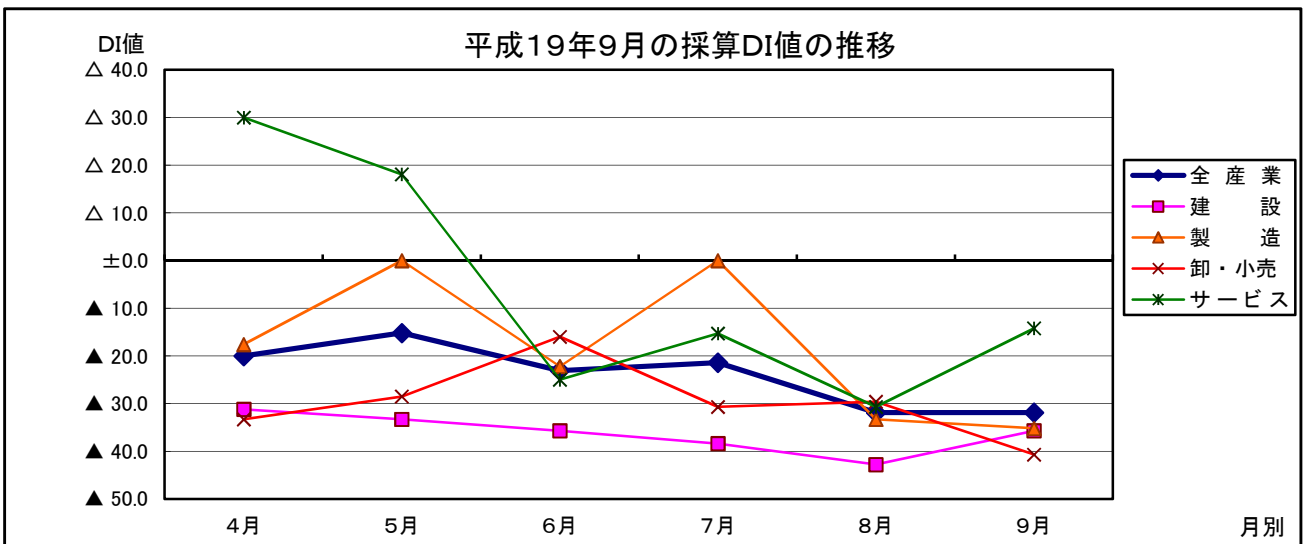
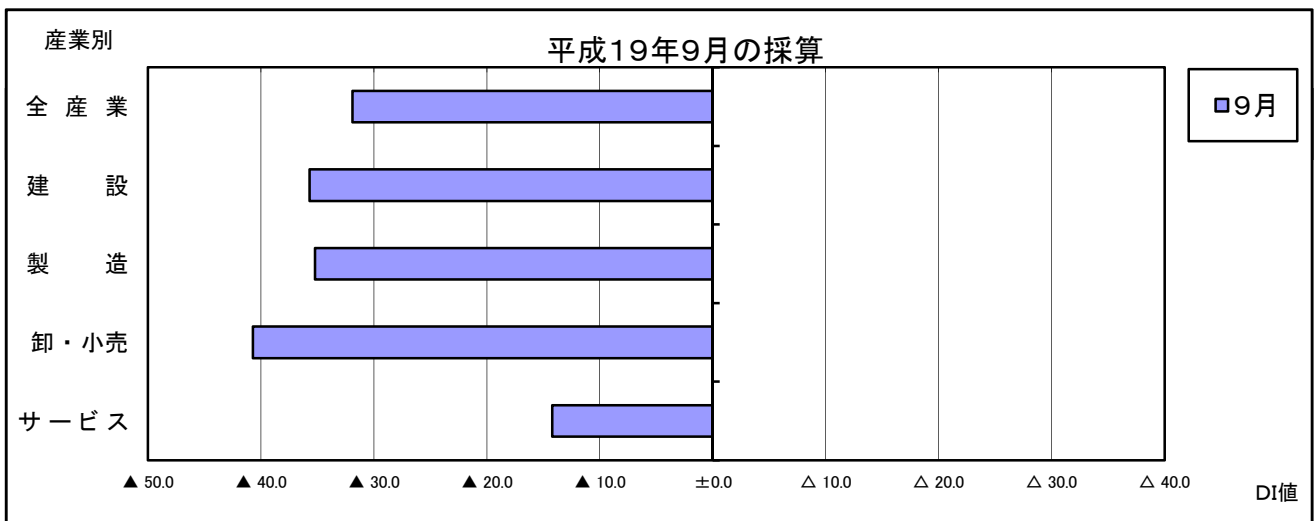
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲14.2(同▲30.7)、建設業▲35.7(同▲42.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.7(同▲29.6)、製造業▲35.2(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲18.0(前月水準▲4.1)となり、マイナス幅が▲13.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、建設業▲14.2(同▲14.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲25.9(同▲3.7)、製造業▲11.7(同±0.0)、サービス業▲14.2(同▲7.6)であり、特に、卸小売業はマイナス幅が▲22.2ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成19年9月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲20.0	▲15.2	▲23.1	▲21.4	▲31.9	▲31.9	▲18.0(▲4.1)
建設	▲31.2	▲33.3	▲35.7	▲38.4	▲42.8	▲35.7	▲14.2(▲14.2)
製造	▲17.6	±0.0	▲22.2	±0.0	▲33.3	▲35.2	▲11.7(±0.0)
卸・小売	▲33.3	▲28.5	▲16.0	▲30.7	▲29.6	▲40.7	▲25.9(▲3.7)
サービス	△30.0	△18.1	▲25.0	▲15.3	▲30.7	▲14.2	▲14.2(▲7.6)



【平成19年9月の仕入単価についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲47.2(前月水準▲45.8)となり、マイナス幅が▲1.4ポイント拡大した。

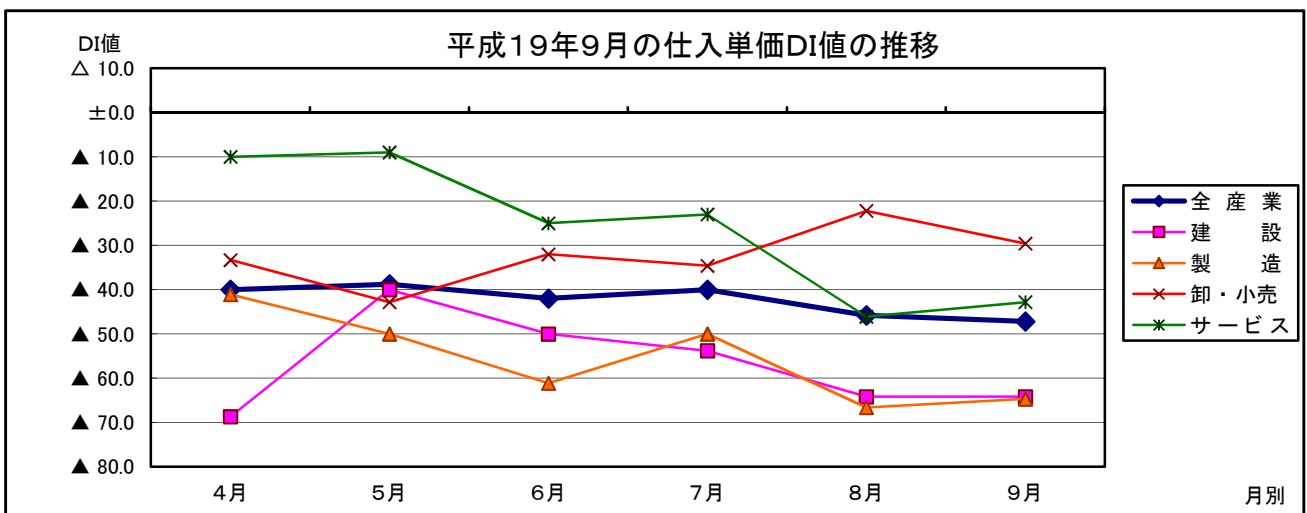
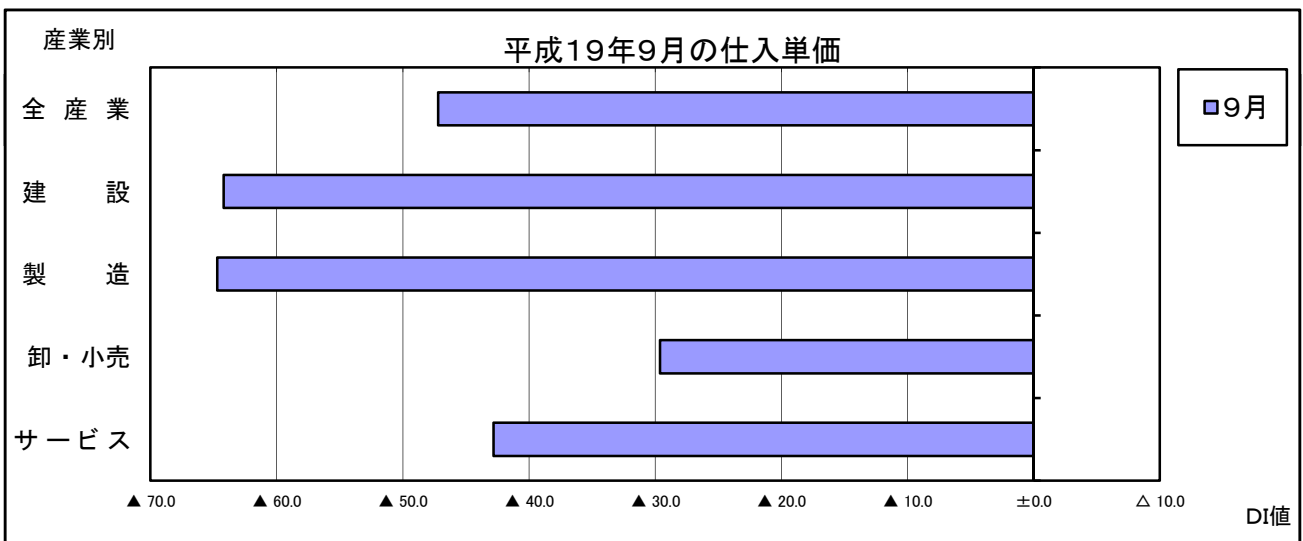
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲42.8(同▲46.1)、製造業▲64.7(同▲66.6)である。変らない業種は、建設業▲64.2(同▲64.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲29.6(同▲22.2)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲40.2(前月水準▲37.5)となり、マイナス幅が▲2.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲21.4(同▲38.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.7(同▲29.6)、建設業▲57.1(同▲50.0)、製造業▲41.1(同▲38.8)である。

平成19年9月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲40.0	▲38.8	▲42.0	▲40.0	▲45.8	▲47.2	▲40.2(▲37.5)
建設	▲68.7	▲40.0	▲50.0	▲53.8	▲64.2	▲64.2	▲57.1(▲50.0)
製造	▲41.1	▲50.0	▲61.1	▲50.0	▲66.6	▲64.7	▲41.1(▲38.8)
卸・小売	▲33.3	▲42.8	▲32.0	▲34.6	▲22.2	▲29.6	▲40.7(▲29.6)
サービス	▲10.0	▲9.0	▲25.0	▲23.0	▲46.1	▲42.8	▲21.4(▲38.4)



【平成19年9月の従業員についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△11.1(前月水準△9.7)となり、プラス幅が△1.4ポイント拡大した。

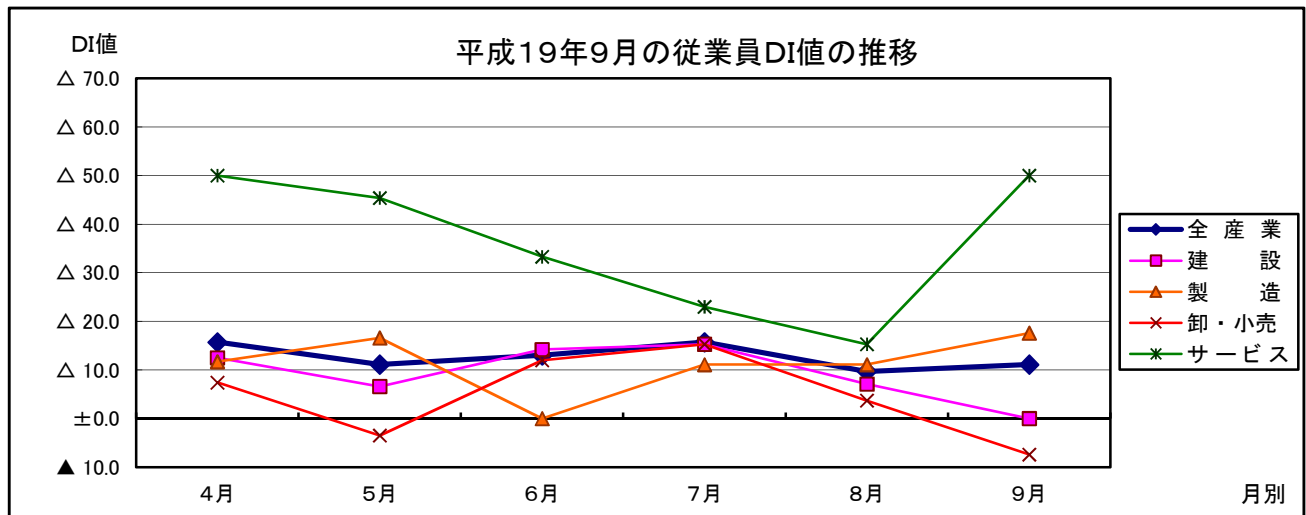
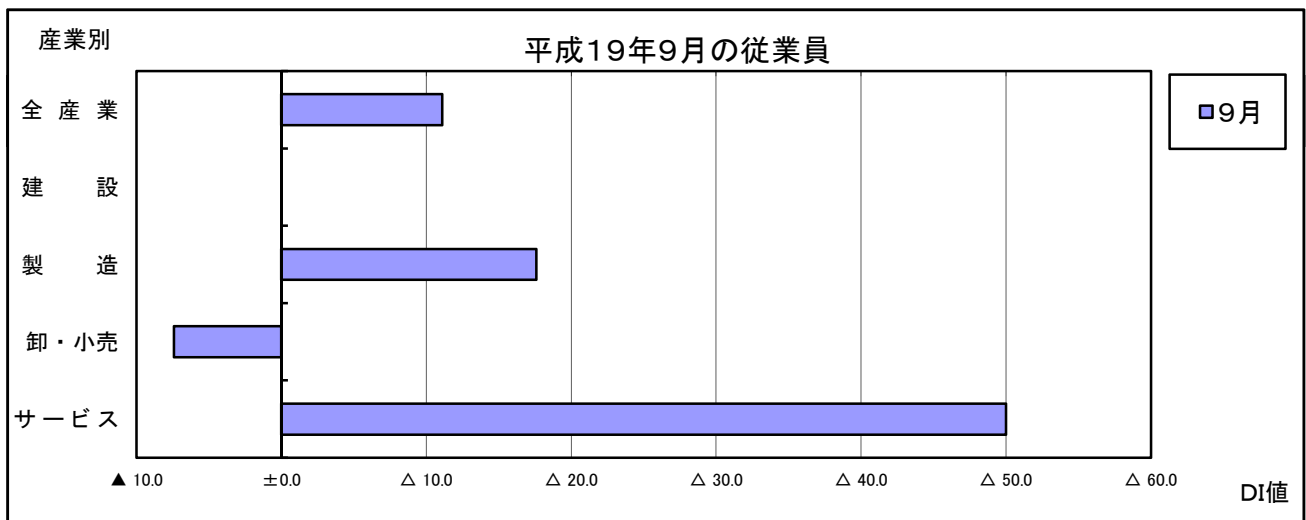
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△50.0(同△15.3)、製造業△17.6(同△11.1)であり、特に、サービス業はプラス幅が△34.7ポイントと大幅に拡大した。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△7.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、卸小売業▲7.4(同△3.7)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△12.5(前月水準△12.5)となり、変わらない見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△50.0(同△15.3)、製造業△23.5(同△11.1)であり、サービス業はプラス幅が△34.7ポイントと大幅に拡大する見通しである。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、卸小売業▲3.7(同△11.1)、建設業▲7.1(同△7.1)である。

平成19年9月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	△ 15.7	△ 11.1	△ 13.0	△ 15.7	△ 9.7	△ 11.1	△ 12.5 (△ 12.5)
建設	△ 12.5	△ 6.6	△ 14.2	△ 15.3	△ 7.1	±0.0	▲ 7.1 (△ 7.1)
製造	△ 11.7	△ 16.6	±0.0	△ 11.1	△ 11.1	△ 17.6	△ 23.5 (△ 11.1)
卸・小売	△ 7.4	▲ 3.5	△ 12.0	△ 15.3	△ 3.7	▲ 7.4	▲ 3.7 (△ 11.1)
サービス	△ 50.0	△ 45.4	△ 33.3	△ 23.0	△ 15.3	△ 50.0	△ 50.0 (△ 15.3)



【平成19年9月の資金繰りについての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.5(前月水準▲6.9)となり、マイナス幅が▲5.6ポイント拡大した。

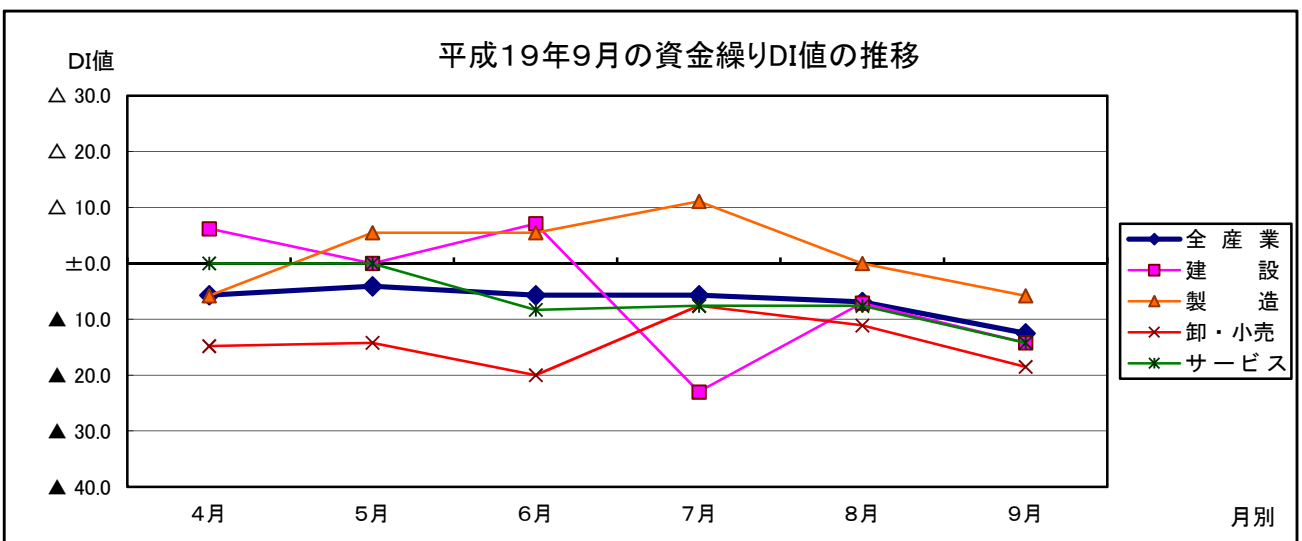
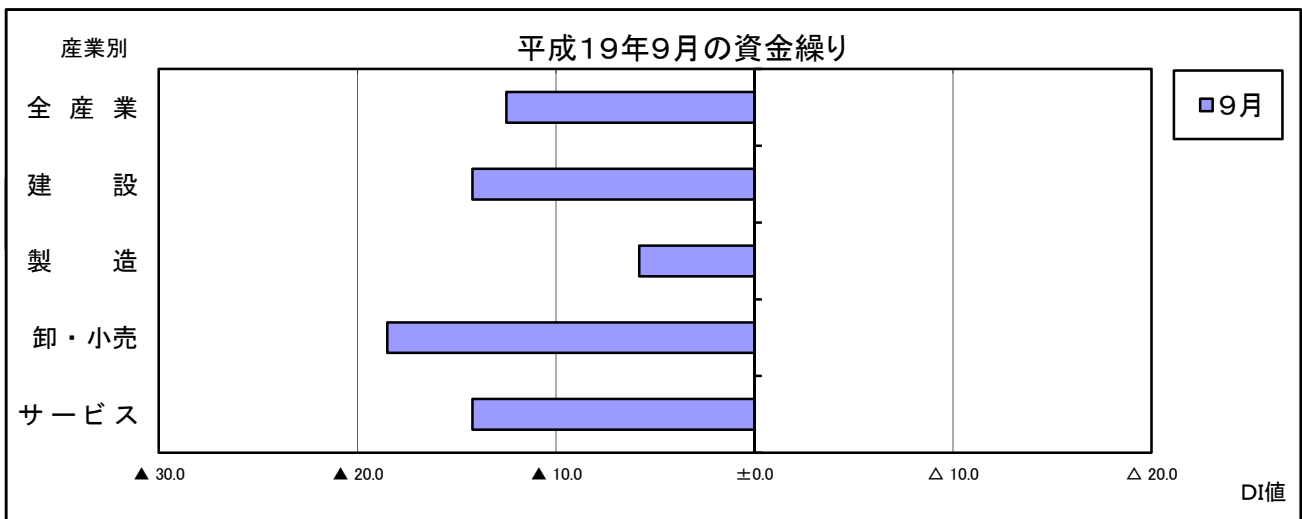
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲18.5(同▲11.1)、建設業▲14.2(同▲7.1)、サービス業▲14.2(同▲7.6)、製造業▲5.8(同±0.0)であり、全業種で悪化した。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.9(前月水準▲9.7)となり、マイナス幅が△2.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲7.4(同▲14.8)、建設業±0.0(同▲7.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲14.2(同▲7.6)、製造業▲5.8(同▲5.5)である。

平成19年9月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成19年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲ 5.7	▲ 4.1	▲ 5.7	▲ 5.7	▲ 6.9	▲ 12.5	▲ 6.9 (▲ 9.7)
建設	△ 6.2	±0.0	△ 7.1	▲ 23.0	▲ 7.1	▲ 14.2	±0.0 (▲ 7.1)
製造	▲ 5.8	△ 5.5	△ 5.5	△ 11.1	±0.0	▲ 5.8	▲ 5.8 (▲ 5.5)
卸・小売	▲ 14.8	▲ 14.2	▲ 20.0	▲ 7.6	▲ 11.1	▲ 18.5	▲ 7.4 (▲ 14.8)
サービス	±0.0	±0.0	▲ 8.3	▲ 7.6	▲ 7.6	▲ 14.2	▲ 14.2 (▲ 7.6)



【平成19年9月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	物件は増加している。あとは予算と積算の問題。つり合う範囲での受注を望んでいる。取り組める範囲ではないことが多い。なかなか厳しい状況です。	・物件増加 ・不採算物件 ・厳しい状況	一般土木建築工事業
	公共工事単価が安すぎるので応札できない。	・公共工事 ・単価安	一般土木建築工事業
	大きな変化はありません。		一般土木建築工事業
	官庁から民間、民間から官庁へ流入流出が盛ん。 官庁の落札価格が低すぎ、このままでは災害時、官庁に協力する業者がいなくなるのでは。	・公共工事 ・単価安	土木工事業(舗装、しゅんせつを除く)
	前年の9月の施工物件が今年は半分に減少している。元請業者の競争が激しくなっている。	・物件減少 ・競争激化	管工事業(さく井を除く)
製造	猛暑の影響で業界の前年単月比は107%となった。	・天候の影響 ・飲料業界好調	清涼飲料製造業
	材料の値上げは簡単に行うが、製品の値上げは難しい。	・仕入コスト上昇 ・価格転嫁	紙製容器製造業
	石油関連商品の値上げが続き、冬季需要期に向けコストアップが心配である。	・仕入コスト上昇 ・先行き不安感	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	地金単価上昇により売上は増加するも、地金単価上昇分全てをユーザーに転嫁できず利益は悪化。	・仕入コスト上昇 ・売上増加 ・価格転嫁 ・利益悪化	非鉄金属・同合金圧延業(抽伸、押出しを含む)
	特に変化はないが、原料、燃料の高騰には厳しいものがある。	・仕入コスト上昇	その他の鉄鋼業
	ユニットハウスのレンタルは好調を維持。	・レンタル好調	建設用・建築用金属製品製造業(製缶板金属を含む)
	部品の加工工数オーバーが予測されるため、新外注加工会社を探しており、会社のホームページで協力会社を募集したところ、1ヶ月以内に数社の応募があり、反応の良さに驚いた。 現在2社と詳細の詰めの進行中である。 しかしながら、工作機械や刃物の違いにより鋳物部品を加工してくれる会社は少ないのが現状で苦慮している。 また、各県の中小企業振興公社さんには会社紹介で大変お世話になった。	・外注先募集	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	政治の不安定や不信感が消費者の先行きの不安感に繋がっているようで、目先の食品に対する買い渋り現象が起きているように思います。	・先行き不安感	食料・飲料卸売業
	8月3日に「東急ハンズ」がステーションモール内にオープンし、そのオープン効果、集客効果により当店への入店客数も大きく増加しました。しかし、9月に入り、その集客効果もステーションモール内に留まっているようです。	・東急ハンズ	百貨店
	改装工事を実施中(現在売場の25%カット工事中)につき、売上減。また、売り切り値下げにより粗利低下。9・10月と営業を行いながら改装工事。11月フルオープン予定。	・店舗改装 ・売上減少	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	柏市周辺の小売業は本格的な競争に入ってきた。我慢できなくなり撤退したり、倒産する小売店が増えるような気がする。 いつものことだが、いかに他と違う個性的な店になる改革が必要である。	・競争激化 ・差別化戦略	各種食料品小売業

【平成19年9月の業種別業界内トピックス】

	<p>季節の移り変わりで野菜や果実の嗜好品にも変化の対応を必要としているが、生産者も当卸売業も困惑するほどの残暑の厳しさに、消費者も変化し、そのニーズに合わせる事が難しくなっている感があります。特に果実です。</p> <p>また、少しずつ秋の気配を感じますが、残暑や台風の影響で入荷量(野菜・果実)に不安定な状況もあり、アンバランスな予想となっている。卸売業の使命に向かい、今後も問題点に向かい、その負託に応えられるように果敢に攻めて販売していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の影響 ・消費者ニーズの変化 ・入荷量不安定 	食料・飲料卸売業
	<p>前年は近くのスーパーが閉店し、別のスーパーが同じ場所に開店するまで約1ヵ月半の空きがあった。そのため売上が良かったが、その反動が出ているものと思う。地区のチェーン店の平均は高気温が続いたこともあって順調だが、当店は不調である。人手不足は相変わらず続いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・売上減少 ・人手不足 	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	<p>小麦粉等の値上げで、材料関係が上がり傾向。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕入コスト上昇 	菓子・パン小売業
	<p>残暑(猛暑)のためか、衣替えの買い替え需要(売上)がゼロ。運動会需要も暑さのために練習量が控えめのためか例年より動かず。</p> <p>飲食・・・道交の改定について、一層のお客様に対する対応が必要との声あり。諸物価の値上がり(値上げ、価格改定)が目立つ。給食(食材)衣料関係も来期(冬物)からの要請あり。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の影響 ・秋冬物商品 ・仕入コスト上昇 	その他の飲食料品小売業
	<p>原油高騰のため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原油高騰 	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	<p>LPG業界は保安高度化が叫ばれているが、一番負担の大きい検満切れメーター交換が資金不足により交換実施を怠っている会社があるらしい。メーター機は計量だけでなく、セキュリティ機能を多く含んでいるため、安全装置など大切な部分が死んでしまうことを忘れてはならない。モラルを問う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・LPGメーター交換 	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	<p>柏の店舗は他の店舗と比べ、10ポイント以上悪い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・柏店不調 	時計・眼鏡・光学機械小売業
	<p>残暑が厳しく、秋冬物商品の出足は良くない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の影響 ・秋冬物商品 	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	<p>9月度は8月中旬から3階正面入口のバリアフリー化工事が開始され、入口を半分閉鎖した影響から、正面口の入店客数は大幅に減少した。売上高は前年を上回る推移となっていたが、6・7日に台風に見舞われたことから、売上高は大きく減少した。中旬の3連休は気温が高かったこともあり、主力の婦人服の動きが鈍く、厳しい結果となった。月末にかけても、厳しい状況が予想されるが、販促イベント等で集客を図り、売上に繋げていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の影響 ・秋冬物商品 ・店舗改装 	各種商品小売業
サービス	<p>9月に入ってから、団体のお客様の予約が増えました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予約増加 	食堂・レストラン
	<p>宿泊・・・Jリーグ宿泊あり 宴会・・・秋のパーティープラン開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Jリーグ宿泊 ・秋の催事 	ホテル
	<p>柏市内においては、同業種(温浴事業)が多く、低価格等で集客を図ることが多くなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・競争激化 ・低価格戦略 	公衆浴場業

【平成19年9月の多い景気キーワード】

◎仕入・コスト上昇

- ・ 材料の値上げは簡単に行うが、製品の値上げは難しい。
- ・ 石油関連商品の値上げが続き、冬季需要期に向けコストアップが心配である。
- ・ 地金単価上昇により売上は増加するも、地金単価上昇分全てをユーザーに転嫁できず利益は悪化。
- ・ 特に変化はないが、原料、燃料の高騰には厳しいものがある。
- ・ 小麦粉等の値上げで、材料関係が上がり傾向。
- ・ 諸物価の値上がり(値上げ、価格改定)が目立つ。給食(食材)衣料関係も来期(冬物)からの要請あり。

◎天候の影響


- ・ 猛暑の影響で業界の前年単月比は107%となった。
- ・ 季節の移り変わりで野菜や果実の嗜好品にも変化の対応を必要としているが、生産者も当卸売業も困惑するほどの残暑の厳しさに、消費者も変化し、そのニーズに合わせる事が難しくなっている感があります。特に果実です。
また、少しずつ秋の気配を感じますが、残暑や台風の影響で入荷量(野菜・果実)に不安定な状況もあり、アンバランスな予想となっている。卸売業の使命に向かい、今後も問題点に向かい、その負託に応えられるように果敢
- ・ 残暑(猛暑)のためか、衣替えの買い替え需要(売上)がゼロ。運動会需要も暑さのために練習量が控えめのためか例年より動かず。
- ・ 残暑が厳しく、秋冬物商品の出足は良くない。
- ・ 9月度は8月中旬から3階正面入口のバリアフリー化工事が開始され、入口を半分閉鎖した影響から、正面口の入店客数は大幅に減少した。売上高は前年を上回る推移となっていたが、6・7日に台風に見舞われたことから、売上高は大きく減少した。中旬の3連休は気温が高かったこともあり、主力の婦人服の動きが鈍く、厳しい結果となった。月末にかけても、厳しい状況が予想されるが、販促イベント等で集客を図り、売上に繋げていく。











平成19年9月のCCI - LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.8に対し、「CCI-LOBO」が▲33.6で、マイナス幅が12.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.1に対し、「CCI-LOBO」が▲27.5で、マイナス幅が16.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.9に対し、「CCI-LOBO」が▲30.9で、マイナス幅が1.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業で、10ポイント以上悪い業種は、卸小売業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲47.2に対し、「CCI-LOBO」が▲34.7で、マイナス幅が12.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で悪くなっており、10ポイント以上悪い業種は、建設業・製造業・サービス業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△11.1に対し、「CCI-LOBO」が▲0.9で、プラス幅が12.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。「柏の景気」の方が10ポイント以上悪い業種は、卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.5に対し、「CCI-LOBO」が▲19.7で、マイナス幅が12.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業。











平成19年9月の柏の景気天気図








柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 20.8	 21.4	 5.8	 40.7	 ±0.0
CCI LOBO	 33.6	 45.4	 27.5	 33.8	 29.1


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 11.1	 21.4	 17.6	 37.0	 7.1
CCI LOBO	 27.5	 37.5	 16.1	 30.8	 23.8


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 31.9	 35.7	 35.2	 40.7	 14.2
CCI LOBO	 30.9	 43.8	 30.7	 27.6	 27.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 47.2	 64.2	 64.7	 29.6	 42.8
CCI LOBO	 34.7	 43.6	 51.3	 22.3	 27.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 11.1	 ±0.0	 17.6	 7.4	 50.0
CCI LOBO	 0.9	 13.6	 0.5	 6.6	 0.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.5	 14.2	 5.8	 18.5	 14.2
CCI LOBO	 19.7	 35.1	 18.3	 17.8	 13.7

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(9月速報)

調査期間：平成19年9月13日～20日

調査対象：全国の407商工会議所が2578業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

業況DIは二カ月ぶりに悪化、仕入単価DIは悪化に歯止めがかからず

九月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、前月水準(三三・一〇)よりマイナス幅が一・六ポイント拡大して三三・六となり、一カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。産業別の業況DIは、卸売でマイナス幅が縮小したものの、他の四業種で拡大した。

【建設業】からは、「売上は前年同月と比べて増加した」(建築工事)との声がある一方、「相変わらず厳しい業況が続いている」(一般工事)、「絶対的な仕事量が不足している」(管工事)、「小規模建設業者が不況を脱出するための良策はないものか。将来に不安を感じる」(土木工事)との声が寄せられている。

【製造業】からは、「輸出は東南アジア・韓国・欧州向けが堅調。全体としては前年並に推移している」(金物類製造)との声がある一方、「消費者の購買意欲が減退している」(パン・菓子製造)、「市内の基幹産業であるにもかかわらず、業況は非常に厳しい。需要が伸びない」(家具製造)との声も寄せられている。

【卸売業】からは、「残暑の影響により、夏物商品の売上が増加した」(衣服・日用品卸売)との声がある一方、「燃料費の高騰が続いており、配送コストが増加した」(食料・飲料卸売)、「仕入れ単価が上昇している。その反面、販売価格に転嫁できない」(農畜産水産物卸売)との声も寄せられている。

【小売業】からは、「衣料品や食料品の売上が増加傾向にある」(その他の小売)との声がある一方、「極度の暑さのため客足が遠のき、売上が5%程度落ち込んでしまった。中国産ウナギがまったく売れなくなり、鮮魚部門の落ち込みが大きい」(その他の小売)、「消費者の需要が減ったため業況が悪化した」(百貨店)との声が寄せられている。

【サービス業】からは、「製造業の設備投資関連の受注が若干増えた」(ソフトウェア)との声がある一方、「仕入れ価格の上昇により採算が悪化している」(食堂・レストラン)、「ますます不況感を感じる」(理容)、「夏休みと秋の観光シーズンの端境期で来店客者が少なかった」(旅館)との声も寄せられている。

仕入コスト上昇
また、各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「原油高および木材高の影響を受け、仕入単価が上昇している。業界は依然として厳しい」(石見沢・建築工事)、「原油価格の高騰により、ガソリン、紙、印刷資材の価格も値上がりしているが、販売価格への転嫁が難しい状況にある」(白桦・印刷)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「鮮魚の仕入価格が上昇しており、先行きに不安を感じており、先行きに不安を感じている」(境港・農畜産水産物卸売)、「ガソリン価格の高騰により仕入コストが増加。明るい兆しがまったく見えない」(亀田・商店街)、「仕入コストの上昇が収益を圧迫している」(豊橋・自動車整備)といったコメントが寄せられている。

九月のキーワード

悪化への懸念

悪化への懸念
各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「公共工事は発注件数の前年割れが続く、民間工事も動きが鈍い。収益状況は依然として厳しい」(米子・一般工事)、「業況は四月・五月頃から悪化したまま変化がない。先行きの見通しが立たない状態である」(加茂・金属加工機械製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「在庫が増加傾向にある。市況全体が悪化している」(浦安・鉱物金属材料卸売)、「売上が悪化した。市内には元気のある小売業はない」(藤枝・その他の小売)、「大企業を中心に業況は好転していると言われるが、地方都市の中小零細業者は相変わらず苦しい」(豊岡・理容)といったコメントが寄せられている。

残暑の影響

残暑の影響
残暑の好影響を挙げる声が聞かれる一方、残暑の悪影響を訴える声も寄せられている。小売、サービスからは、「残暑の影響で売上は好調だった」(福島・商店街)、「残暑の影響で来店客数が多かった。来月も好大を期待している」(赤穂・喫茶店)との声が寄せられている。他方、「八月中旬から秋物商品への切り替えを行っているが、九月に入っても暑い日が多く、荷動きは低調となっている」(静岡・商店街)、「九月に入っても残暑が厳しく、全館的に秋物商品の動きが冴えない」(水戸・百貨店)、「九月に入っても三〇度以上の日が続く。秋物商品が不振」(豊川・百貨店)、「異常なまでの残暑が客足を遠のけているのではないかと考えるほど売上に響いている」(会津喜多方・理容)といったコメントも寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	25.3	36.8	20.6	38.2	19.8	23.9
5月	25.1	40.9	21.3	27.8	22.2	20.9
6月	29.5	46.0	23.4	39.4	26.5	24.5
7月	32.8	43.5	26.3	42.6	31.4	30.8
8月	32.0	44.3	23.5	48.4	31.1	27.9
9月	33.6	45.4	27.5	41.1	33.8	29.1
見通し	27.1	45.2	23.0	25.2	27.2	20.0

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI